Ⅰ－２ 県央都市圏域

県央都市圏域は、６市１町１村（相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）で構成され、県土の中央北部に位置しています。

１ 都市づくりの目標

森や川と共生し、うるおいと活力あふれる都市づくり

丹沢や相模川を中心とした森林・川・湖・清流などの自然と、活気ある都市とがバランスよく存在する「県央都市圏域」では、水源を守り、河川沿いにつらなる豊かな自然的環境を保全・再生するとともに、広域的な交通結節機能を踏まえた生活環境や生産環境の整備を図り、うるおいと活力にあふれる循環型の都市づくりをめざします。

相模川と厚木市街地

資料）厚木市

2 概況と課題

（1）企業の立地ニーズにこたえる産業用地の創出

東名高速道路や国道１６号などの道路網が古くから整備され、幹線道路沿道を中心に製造業や研究開発機関が集積しています。今後、さがみ縦貫道路や東名高速道路の（仮称）綾瀬インターチェンジが整備され、また、全国との交流・連携の窓口となる「北のゲート」の形成に向けて誘致活動が行われているリニア中央新幹線駅が設置されることなどにより、交通利便性が向上し、産業ポテンシャルがさらに高まることが期待されます。

さがみ縦貫道路などの自動車専用道路のインターチェンジ周辺においては、企業の立地ニーズが高いことから、インターチェンジの新設とあわせて産業用地を創出し、産業振興施策と連携しながら、企業立地を促進することが必要になります。

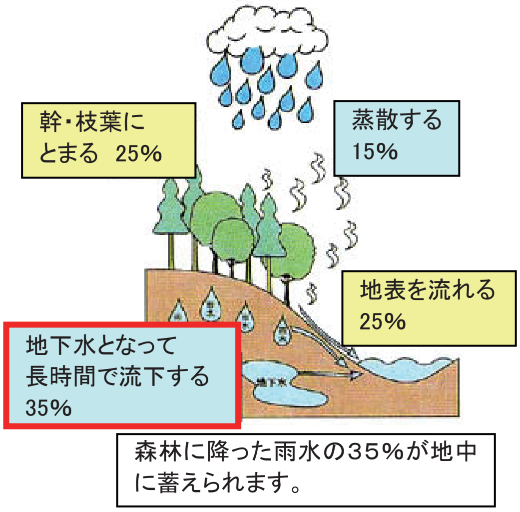
■ 一部区間が開通したさがみ縦貫道路（海老名JCT～海老名IC付近）

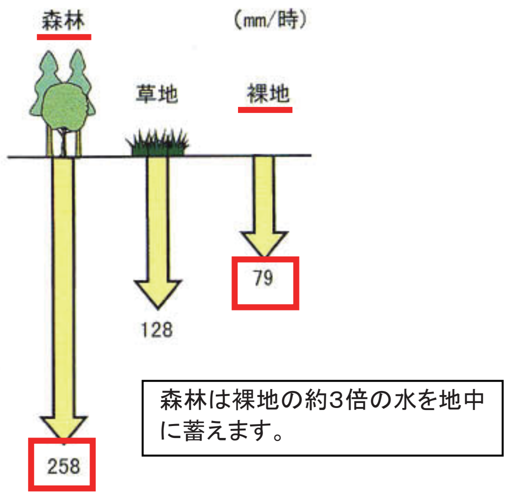
資料）中日本高速道路株式会社 厚木工事事務所

（2）貴重な水源環境の保全

丹沢大山、津久井一帯に広がる豊かな森林は、首都圏共有の財産であるとともに、県の水源地としての重要な役割を担っています。しかし、近年、手入れ不足により森林の荒廃が進むことで、水源かん養機能の低下が懸念され、良質で安定した水資源の確保が課題となっており、森林整備の推進などによる水源環境の保全が必要となっています。

■ 森林の水源かん養機能





資料）神奈川県自然環境保全センター「かながわ水源の森林づくり」

■　手入れのされていないヒノキ林

資料）神奈川県県央地域県政総合センター

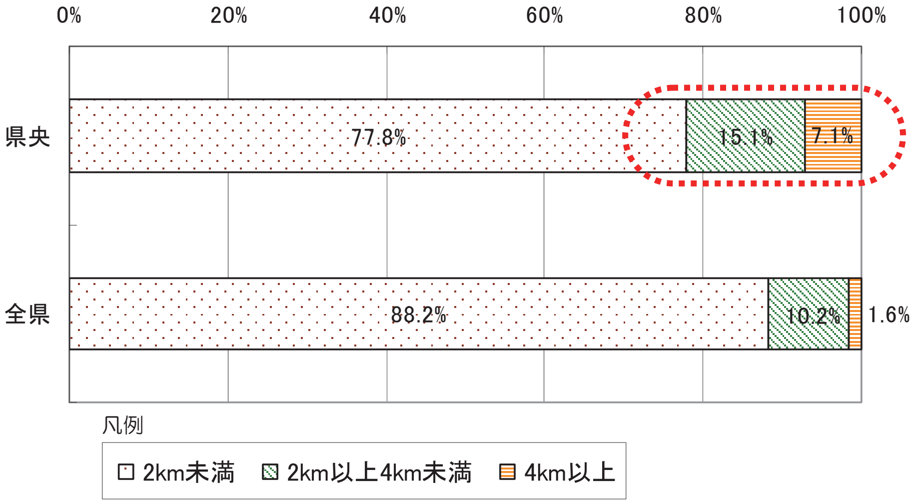
(3) 公共交通の充実による過度な自動車依存の改善

JR 横浜線や小田急小田原線などの鉄道網や幹線道路が整備された交通の要衝であり、首都圏との交通の利便性が優れています。また、さがみ縦貫道路や新東名高速道路の整備が進められるなど、ますます交通利便性の向上が期待されます。

一方、地域の現状として、鉄道駅から離れた郊外においても市街地が形成されており、駅へアクセスするための交通手段は、全県と比較すると自動車利用の依存度が高くなっています。

このため、郊外と鉄道駅を結ぶ利便性の高い公共交通を確保することで自動車利用から公共交通へ転換を図ることが必要になります。

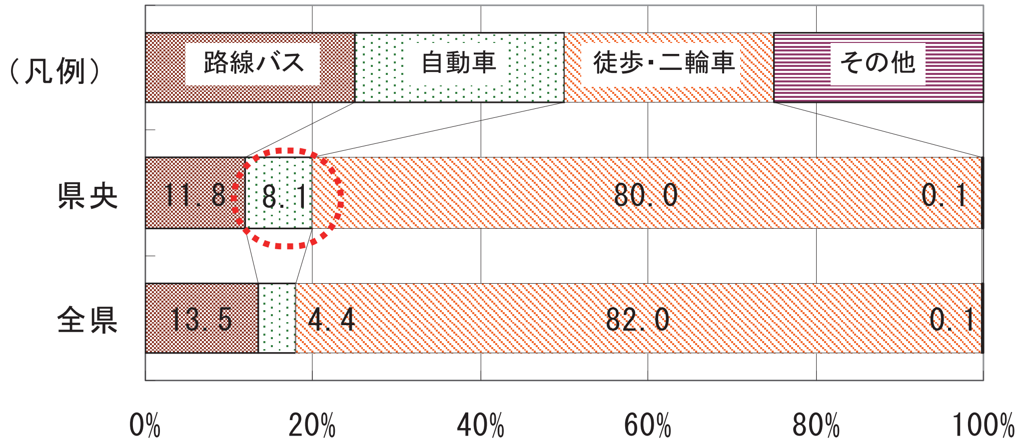
■　最寄り駅からの距離と居住人口の割合



※都市計画基礎調査小ゾーン（大字、町丁目レベル）単位で算出

資料）神奈川県都市計画課「都市計画基礎調査（平成１７年度）」

■ 駅アクセスの交通手段別トリップ



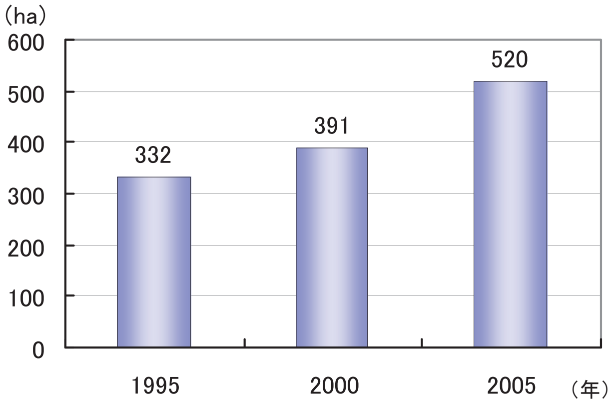
資料）東京都市圏交通計画協議会「第５回（平成２０年）パーソントリップ調査」

(4) 多様な担い手による農地の保全

相模川などの河川沿岸や丹沢大山、津久井の山すその農地は、都市住民に新鮮な農産物を供給するとともに自然とのふれあいの場としての役割を担っています。しかし、近年、農業の担い手不足や開発などにより、一部の農地では耕作放棄地の増加や転用が行われ、さらなる農地の荒廃、減少が懸念されます。

このため、農業の活性化や多様な担い手による管理を通じた、農地の保全が必要となっています。

■ 耕作放棄地面積の推移（県央都市圏域）



資料）農林水産省「農林業センサス」

（5）防災力、減災力[11]の高いまちづくり

境川、引地川など、流域の都市化が進んだ河川では、台風や局地的なゲリラ豪雨による想定外の大雨の際、流域に降った雨水が短時間のうちに河川に流出したり、低地に集中したりするために、浸水被害を引き起こすことが課題となっています。

このため、県と市町村などが連携して、河道や洪水調節施設の着実な整備とあわせ、雨水の流出量を抑制する流域対策や、水害を軽減するためのソフト対策の充実を図ることにより、防災力、減災力を高めることが必要となります。

■　2008（平成20）年8月末の豪雨による境川被害状況（相模原市緑区川尻）

資料）神奈川県河川課

[11]減災力　…「防災」が被害を軽減するための事前の取組みであるのに対し、自然災害は完全に防ぐことが出来ないといった前提に立ち、被害の発生を想定した上で、被害をもたらす要因、被害を大きくする要因を分析し、効果的な対策を講じることで、事前の被害軽減の取組みとともに、災害が起こった際には的確に対応して、できるだけ被害を減らそうとする力。

3 基本方針

「環境共生」の方針

多様な選択肢を提供可能な都市づくり<複合市街地ゾーン>

- 広域拠点で交通の要衝である橋本駅、本厚木駅周辺においては、県内をはじめ、東京都など県境を越えて広域的に活動する人々の多様なニーズに対応するため、環境との調和・共生に配慮しながら、商業・業務施設、公共公益施設、文化・芸術施設など、多様な都市機能の集積を図ることで、広域的な交流でにぎわう、活力ある市街地を形成します。
- 地域の拠点周辺及び鉄道駅周辺においては、既存の商業・業務施設や公共公益施設などの集積を生かし、商店街の活力向上や、サービス機能の向上などを図りながら、住宅などの都市機能を充実させることで、街なか居住を促進し、にぎわいのある市街地を形成します。
- 特に、JR 相模原駅に近接する米軍施設の一部返還予定地や海老名駅などの駅に近接する大規模な低未利用地については、環境との調和・共生に配慮しながら、土地の高度利用と複合利用を図りつつ、商業・業務、文化などの多様な都市機能を集積することで、交通利便性を生かした地域の拠点としてふさわしい市街地整備を推進します。
- さがみ縦貫道路や新東名高速道路などの整備により、都市圏域や神奈川県を越えてますます高まる交流連携機能を生かし、幹線道路沿線に立地した既存の工業団地においては、産業振興施策と連携しながら、既存の産業集積を生かした企業の誘致を進め、工場生産機能の強化、研究開発機能やそれに関連する企業などの新たな産業の集積を図ることで、産業活力の向上を図ります。
- また、産業構造の転換などに伴う企業の撤退により発生した工場跡地などについては、必要に応じて地域の実情を踏まえた土地利用規制の見直しを行い、適切な都市機能の集積を図ります。
- 産業活動の活発化などに伴い予想される自動車交通量の増加を抑制するため、カーシェアリング[12]をはじめとした交通需要マネジメント（TDM）[13]に取り組みます。また、郊外の住宅地と中心市街地を結ぶバスなどの公共交通機関を充実することで、高齢者などの活動を支えるとともに、過度に自動車に依存しない環境にやさしい交通体系の構築を目指します。
- 境川、引地川のように流域の都市化が進んだ河川において、河道や洪水調節施設の整備とあわせ、雨水貯留浸透施設の整備などの流域対策を行うことで、水害の発生を抑制するとともに、被害を低減します。

---

[12]カーシェアリング　…１台の自動車を複数の会員が共同で利用する自動車の新しい利用形態。利用者は、自動車を所有せず、管理団体の会員となり、必要なときにその団体の自動車を借りるという、会員制レンタカーのようなもの。

[13]交通需要マネジメント（ＴＤＭ）…<Transportation Demand Management>車の利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市や地域レベルの道路交通混雑を緩和する手法。円滑な交通流の実現により、二酸化炭素排出量の削減といった環境の改善、地域の活性化が図られる。

ゆとり志向に対応した、魅力ある地域環境の維持・充実

＜環境調和ゾーン＞

- 相模川などの河川の沿岸地域に広がる水田や河岸段丘に形成された斜面緑地など、市街地周辺に残された農地や緑地の保全を図ります。
- 担い手不足により増加傾向にある耕作放棄地については、新規就農者の人材育成や市民農園としての活用など、多様な担い手により農地の保全を図ります。
- 丹沢大山や津久井の山すその農地・森林などは、隣接する「自然的環境保全ゾーン」との連続性を踏まえて保全を図ります。
- 市街地周辺に残る谷戸や里地里山などの自然的環境は、所有者、地域住民、企業など多様な担い手による保全・再生を図ります。また、都市住民の自然志向などの多様なニーズの受け皿として、身近なレクリエーションや自然環境教育、体験・交流の場として活用を図ります。
- 農林水産業の振興などの観点から、既存集落の活力や生活環境の維持が必要な場合には、周辺地域の市街化を促進しない範囲で、地区計画に基づく土地利用の整序誘導や、地域の実情に応じたモビリティの確保などを図ります。
- さがみ縦貫道路、新東名高速道路、国道２４６号バイパスの整備に伴い新設されるインターチェンジや、東名高速道路に設置する（仮称）綾瀬インターチェンジの周辺では、広域的な交流連携機能を生かし、企業の立地ニーズにこたえる産業用地を創出し、新たな産業や物流機能の集積を図ります。

多様な担い手による自然的環境の保全・再生＜自然的環境保全ゾーン＞

- 神奈川の重要な水源地である相模川流域の上流部に広がる森林の保全・再生を図り、水源かん養機能が高い森林とすることで、良質で安定的な水資源の確保を図ります。
- 県と市町村が連携するとともに、ボランティア団体や民間企業と協働して、森林などの自然的環境の保全・再生を図ります。
- 中山間地域を、都市で生活する人々の身近なレクリエーションや健康づくりの場として活用するため、地域の実情に応じたモビリティの充実を図ります。
- 「丹沢山麓景観域」、「やまなみ・酒匂川景観域」を形成する丹沢大山、津久井一帯に広がる森林が織り成す山なみ景観の保全を図ります。

「自立と連携」の方針

《自立に向けた都市づくり》

＜新たなゲート＞（首都圏や全国との交流連携を実現するゲート機能を備えた拠点）

- 「北のゲート」として、リニア中央新幹線駅の誘致に取り組むとともに、新たなゲート機能を核に、全国との交流連携の窓口にふさわしい商業・業務、文化・芸術機能などの複合的かつ高度な集積を図ります。また、周辺地域への交通網の充実・強化とともに、「南のゲート」との連携を図りながら、新たな環境共生型の拠点づくりを進めます。

＜広域拠点＞（都市圏域全体の自立をけん引する拠点）

- 本厚木駅周辺においては、商業・業務、交流などの各種機能の集積による土地の高度利用、複合利用を図ることで拠点性を高めます。また、バスの利便性を向上するため、ターミナル機能を強化・充実するとともに、自動車交通の円滑化などと連動して、バリアフリー化された歩行者ネットワークを形成することによって、歩いて楽しめる拠点の形成を図ります。
- 橋本駅周辺においては、近隣に集積する既存の産業基盤と、整備が進んでいる幹線道路や鉄道による交通利便性を生かし、研究開発や業務機能などの集積を図ります。また、文化・芸術機能などの強化とあわせて、民間活力を生かした集客力のある商業集積や居住機能の充実を図り、県内の圏域間に加え、町田・八王子など東京市部を含む都市間において、人、モノ、情報が活発に行き交うような、広域的な交流拠点づくりを進めます。

＜地域の拠点＞（都市圏域全体の自立を支え、地域における日常生活のニーズにきめ細かく対応する拠点）

- 「相模大野駅周辺」では、既存の文化、教育などの機能を生かしつつ、近接する町田駅周辺地区と連携を図りながら、広域的な商業・業務機能の集積を図ることで拠点の形成を進めます。
- 「ＪＲ相模原駅周辺」では、商業・業務施設、官公庁、文化施設などの集積を生かし、また、駅北部に位置する在日米陸軍相模総合補給廠の一部返還予定地のまちづくりを進めることで、さらなる拠点性の向上を図ります。
- 「大和駅周辺」では、拠点商業地としての商業環境の形成や、中心市街地としての文化施設、業務施設の集積を推進することで、拠点の形成を進めます。
- 「海老名駅周辺」では、商業・業務、文化などの都市機能の充実と集積を促進し、交通利便性を生かした拠点の形成を進めます。
- 「座間市中心市街地」では、地域の日常生活の拠点として商業・業務を中心とした都市機能の集積を図ることで拠点の形成を進めます。

- 「綾瀬市中心市街地」では、バスターミナルを生かした憩い・交流の場として、商業機能などの充実を図り拠点の形成を進めます。
- 「愛川町役場周辺」では、行政・文化機能に加え、バスターミナル機能などの集積を図ることで拠点の形成を進めます。
- 「清川村役場周辺」では、豊かな自然的環境や観光、文化・交流施設などを生かしながら、住宅や商業施設などがバランスよく整った拠点の形成を進めます。

《連携による機能向上》

＜県土連携軸＞ （都市圏域間･拠点間の交流連携を促進する連携軸）

- 都市圏域全体の交通利便性の向上により交通渋滞の緩和を図るとともに、新たな産業活力の創出に向けて、南北のゲートを有機的に結び、湘南都市圏域や東京市部などとの南北方向の交流連携を深めるため、「相模軸」を構成する「ＪＲ相模線」の複線化に取り組むとともに、「さがみ縦貫道路」や「下今泉門沢橋線」の整備などを進めます。
- 「北のゲート」の機能を本都市圏域の内外に広めるとともに、近接する大都市などの市場との交流を促進するために、川崎・横浜や山梨方向の連携を図る軸として、「川崎多摩相模原軸」を構成する「小田急多摩線」の横浜線・相模線方面への延伸に取り組むとともに、「横浜厚木軸」を構成する「横浜厚木線」の整備、「橋本津久井軸」を構成する「津久井広域道路」の整備などを進めます。また、東京市部・区部方向の連携軸である「厚木東京軸」の機能強化として、東名高速道路への利便性を高める「（仮称）綾瀬インターチェンジ」の設置や、「県央足柄軸」を構成する「新東名高速道路」、「国道246 号バイパス」などの整備、「厚木世田谷軸」を構成する「小田急線」の輸送計画の改善などに取り組みます。

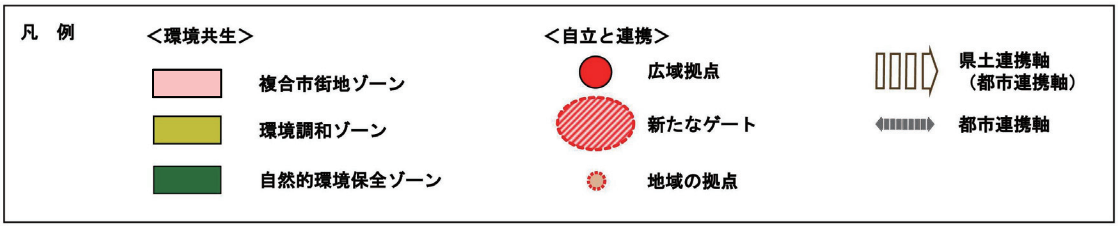
＜都市連携軸＞ （地域の特性を踏まえた都市づくりを支える連携軸）

（主に都市圏域内外の交流を補完する軸）

- 「南のゲート」や「ツインシティ」方面と連絡する「平塚厚木軸」や「海老名寒川軸」を位置づけ、新たなゲートや環境共生モデル都市の機能を、広域拠点「本厚木駅周辺」や地域の拠点「海老名駅周辺」に向けて広めるとともに、湘南都市圏域内の拠点との連携強化を図ります。
- 「津久井道志軸」や「城山八王子軸」を位置づけ、山中湖をはじめとする富士五湖方面や高尾山などの観光地との交流連携を図るとともに、水源地域における社会経済活動の利便性確保を図ります。
- 地域の拠点「綾瀬市中心市街地」や「大和駅周辺」と横浜方面や湘南方面を結ぶ「中原街道軸」、伊勢原方面から地域の拠点「清川村役場周辺」を経て津久井地域に至る「伊勢原津久井軸」を位置づけ、地域の拠点に集積する公共公益機能や商業・業務機能の交流連携を図ります。

（主に都市圏域内の交流を支える軸）

- 東名高速道路の（仮称）綾瀬インターチェンジと、地域の拠点「綾瀬市中心市街地」や「座間市中心市街地」などを、相互に連絡する「高座縦断軸」、また、地域の拠点「綾瀬市中心市街地」と湘南方面を結ぶ「辻堂綾瀬軸」を位置づけ、新たなインターチェンジによる交流機能を周辺地域に広めるとともに、拠点間の連携強化を図ります。
- 「相模野横断軸」、「厚木津久井軸」及び「藤野青根軸」を位置づけ、地域の拠点「愛川町役場周辺」と広域拠点「本厚木駅周辺」の連絡をはじめ、本都市圏域内の交流連携を図るとともに、沿線地域における日常生活の利便性確保などを図ります。

将来都市構造

＊ゾーニングは都市づくりの方向性をイメージとして表現したものです。